

対談 企画

小諸市長 小泉俊博



小諸市教育委員会 教育長 山下千鶴子

「地域にとって、学校を身近な存在に」

学校って、どうしても敷居が高いとおもわれがちです。本当は、もっと地域との関わりがあってもいい場所なのではないでしょうか。関わり合いのなかで、子どもたちのコミュニケーション力が育まれます。



【教】教育委員という立場から、非常時の対応マニュアル、学校間の連絡が機能していた状況を安心して見ていました。先生たちの指導のもと、教育現場での感染対策もしっかりと行われていましたね。小諸市では、「教育委員会」と「市の行政部門」とが、それぞれの専門分野で、役目を果たしながらしっかりと連携しています。現在、小諸市学校教育審議会の答申を受けて、小中学校の再編について議論・検討を重ねています。改めて、市民の皆さんにご説明し、ご意見をいただいでいく予定です。

【問】いま、「特色ある教育」が実践されている自治体への移住が増えています。小諸市の教育には、どんな魅力があるのでしょうか。

【教】様々な魅力があると思いますが、そのひとつは「給食・食育」だと思います。栄養士さんたちが工夫して考えたメニューを地元の食材をふんだんに使い、調理されています。「今日の給食は、なんだらう」と毎日楽しみにしている子どもたちが多いいんです。



「おいしい給食」は、小諸の魅力

【教】私の息子も小学生の頃には毎日おかわりしていたようですし、小諸に赴任した先生たちは口を揃えて、「小諸の給食は、どうしてこんなに美味しいの？」というんです(笑)。

“選ばれるまち”となる「健幸都市こもろ(小諸版ウエルネス・シティ)」を実現していくには、小諸市の教育が「健康で健全な教育」であることが不可欠です。我々を取り巻く環境は刻々と変化しており、教育に寄せられる期待が大きくなっています。それは教育の在り方が、市民一人ひとりの生き方や幸せに直結するとともに、社会の発展の基礎をつくり、未来を決定する大変重要な問題だからです。今回は、新たに小諸市教育長に就任された、山下千鶴子さんにお話を伺います。



山下教育長の経歴と小諸市の教育の特色

【問】はじめに、山下教育長の経歴を教えてください。

【教】小諸生まれの小諸育ちで、坂の上小学校・芦原中学校で学び、教員になりました。その後、水明小学校や東小学校に赴任し、最後は坂の上小学校で定年退職いたしました。

【問】教員生活のかなり長い期間を小諸で過ごされたんですね。

【教】14年くらいですので、教員生活の三分の一くらいが小諸だったことになります。生まれ育った地で長く教員ができたことはありがたかったです。

【問】小諸の教育の特色はどんなものでしょうか？

【教】子どもたちに向かう教員が研究・研修を重ね、高め合うという文化は小諸の特徴です。「梅花教育」の歴史が、今こそ

【問】ライフスタイルが多様化するなかで、食事が不安定になりがちな家庭もあります。「1日3食の内、しっかりとした食事が必ず提供される」という環境は、重要な子育て支援なのではないでしょうか。

【教】この「おいしい小諸の給食」の歴史をつないでいくのは、私たちの責任ですね。

「好奇心は枯れない」生涯学習の大切さ

【問】「学ぶこと」は、子どもだけのものではなく、豊かな人生を送るために大切ですね。

【教】かつて、大先輩から教えてもらった面白い話に「いま何時?」があります。これは、「80歳まで生きる」として、いまの年齢を1日の24時間に当てはめてみる」というものです。例えば、20歳のひとは、「朝6時」。成人しても、実はそのひとの人生は、始まったばかりなんです!

【教】この話は、一生の基礎となる「幼児教育・学校教育の大切さ」、そして「そのあとの人

教員に根づいてほしいです。学校は授業が勝負ですから、そのための支援をしっかりとりたいです。人権・同和教育に力を入れているのも特色です。LGBTQにつながる、平等と多様性の大切な学習ですね。

【問】コロナ禍における、小諸市の教育現場についてどのようなお考えですか。

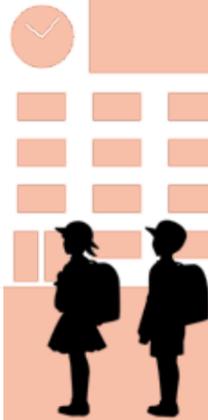
【教】この間、全国規模で何度も休校が実施されましたが、小諸市では休校に入る前に数日の猶予期間を設けていました。これは、子どもたちの心のケア、休校中の学習環境整備を第一に考えていたからです。緊急を要する場面であったことは十分に承知していますが、必要な期間だったと思います。

生には本当に多くの時間が残されているということ、その時間は誰にも平等に与えられているということ」を教えてください。私たちは常に色々な夢を描けますし、可能性にあふれているのです。

【問】山下教育長は社会教育指導員として、文化センターで様々な市民講座の企画もされてきました。

【教】企画する立場でありながらも、「自分の知らない世界がこんなにもあるのか」と日々、発見と感動を繰り返す、大変に刺激的な期間でした。受講してくださった皆さん

も「次はこんな講座をやってください!」「覚えたことを地域のみんなに教えてみたよ」と、常に熱意にあふれていました。私は、教育は人生そのもので、本当に、「学びには終わりはない」のだと思っています。



給食委託が始まり、 子どもたちにとってよかったこと



充実した食育活動

小諸市では委託開始前から、子ども達に「食べることに興味をもて、食べる事が好きになってほしい」と願い、様々な食育活動を行ってきました。委託開始後もその願いは変わらず、受託された業者の方々も同じ気持ちです。

新型コロナウイルス対策をしながら、受託業者の方々の食育のアイデアも加わり、子ども達により幅広い体験をしてもらっています。

安全安心な給食

「衛生面」「食物アレルギー対応」は、命にかかわるとても重要なことです。受託された業者の方々のノウハウが加わることで、今まで以上に安全安心を追求した給食の提供につながっています。

今後の給食委託について



市や保育園と受託された業者の方々と連携し、これまでの給食へのこだわりを継続しながらも、子ども達にとって「委託になってよかった」と思えることを増やしていけるよう努めます。

また、市が定期的に業務評価を行い、受託業者の方々の業務実施状況を確認していきます。

園 子ども育成課 子ども育成係



食育にチカラを入れています

地元農家や委託業者の皆さんと一緒に、様々な素材・教材を用いながら、小諸市食育年間計画や各園の保育のテーマ等に沿った食育活動を行っています。

こだわりの給食
献立は引き続き、市の栄養士が立てています。これまでこだわってきた「天然のだし」「塩分控えめ」「地元産食材」「手作り」等を継続していきます。

食材の発注
食材選びや発注は市で行っています。直売所の方、地元生産者の方、地元の業者の方など、これまでお世話になってきた方々に引き続きご協

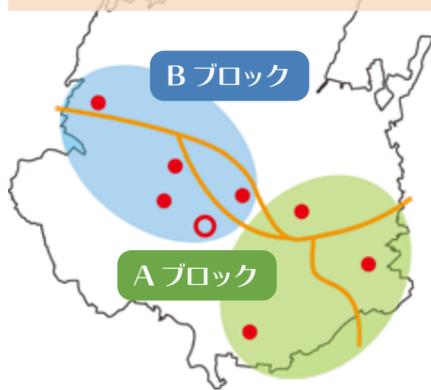
力いただき、子どもたちに安全でおいしい給食を提供してまいります。

自園での調理
センター方式ではなく、各園にある調理室で給食を作っています。温かい物は温かく、冷たい物は冷たく、できたての給食を食べられます。

給食を作っている姿が見え、おいしいそうな匂いもしてきます。子ども達の五感を刺激することが、食育の面でも大切です。

給食委託のブロック図

地域性を考慮し、市内をA・Bの2ブロックに分け、それぞれ「株式会社魚国総本社 名古屋本部」「株式会社メフォス」に給食調理業務を委託しています。



こだわりはそのままに ～市立保育園 委託給食～



小諸市立保育園では長年にわたり、子どもたちの体と心の成長のために、安全でおいしい、こだわりの給食を自園調理で提供してきました。子どもたちに愛され、子どもたちを育ててきた「こだわりの給食」の継続を目的に、令和3年4月から「給食調理業務」の民間委託を行っています。

コロナ
トピックス
その2

病児・病後児保育施設をご利用ください

病児・病後児保育とは…

病気の治療中または回復期にあり、集団保育が適当ではなく、かつ保護者の勤務等の都合で家庭での保育ができない児童を、専用の保育室で看護師等の専門スタッフが預かるサービス。

これまで小諸市の病児・病後児保育事業については、市外の病児・病後児保育施設を利用する形態となっており、市内からのアクセスの不便が大きく影響し、利用実績が少ない状況になっていました。

今年8月に、病児・病後児保育施設「こもろスマイル園」を、中心市街地の「こもテラス」内に開園いたしました。このことで、ニーズの高い病児・病後児保育を、より多くの方が利用しやすいようになりました。また、近接する二次救急医療を担う「浅間南麓こもろ医療センター」と連携することで、緊急時の安全性も確保できるようになっています。

利用には、事前登録が必要です

現在では多くの方々が利用者登録をされ、ご活用いただいています。今後の利用を考えている方はもちろん、そうでない方も、まずは事前登録をお願いします。



施設・制度についてや事前登録はこちら

施設名称は、瀧崎瑞貴さんの応募により決定しました。

コロナ
トピックス
その1

新保育園の建設が進んでいます

新保育園「南城森の保育園」は、令和4年度に開園します。現在、新園舎建設を進めるとともに、市内公立保育園の主任保育士を中心とした新保育園プロジェクト会議を立ち上げ、保育目標などを協議しています。

また、統合される芦原・中央保育園の園児交流会（表紙）も定期的開催し、新保育園のスタートに向けた準備を進めています。



新保育園の名称は、萩原有紀美さんの応募により決定しました。